

教科(科目)	国語（現代の国語）	単位数	2単位	学年(コース)	1学年 必修
使用教科書	第一学習社『高等学校 標準現代の国語』				
副教材等	第一学習社『標準現代の国語 学習課題集』 尚文出版『常用漢字ダブルクリア五訂版』 啓隆社『国語小町 基礎編・標準編』 尚文出版『国語必携ライトパーフェクト演習三訂版』 東京書籍『高校国語入門』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～上越地域唯一の商業を専門とした高等学校として、生徒の多様な進路に対応した教育活動を行います～ ①1年生では基礎学力の充実に努めるとともに、積極的に将来の自分について探求する姿勢を育成します。 ②2年生では商業科目を系統的に学習することを通して、高い専門性を追求します。 ③3年生では学校の教育活動全体を通して、実社会で必要とされるビジネスマナーの習得を目指します。 ④各学年における探究的な学習活動や体験学習、教科横断的な学習により、深い学びを実践していきます。
カリキュラム・ポリシー	～このような生徒を求めています～ ①将来は自分でお店を持つなど、起業に関心がある生徒。 ②事務や販売などの仕事につくことを目指しており、そのための知識を学びたい生徒。 ③生まれ育った地域のために自分に何が出来るか考えている生徒。 ④新しいことに挑戦してみたいという積極性があり、進路希望実現のために努力を惜しまない生徒。 ⑤健康的で規則的な生活習慣をもち、ルールやマナーを守る生徒。

2 学習目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
--

3 指導の重点

進学・就職等希望進路が多岐にわたっていることから、 ① 的確に理解する力や、筋道を立てて考えたり多角的に考えたりする力を高めることを目指します。 ② 自分の考えを適切に表現し、想像力を伸ばし、積極的に他者とのコミュニケーションを図る態度を身につけさせます。 ③ 基本的な言語事項の習得を重視し、特に常用漢字の確実な習得を目指します。
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。

5 評価規準と評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・提出された課題などの確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・提出された課題などの確認、分析 ・振り返りシートの分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業への取組状況の観察 ・振り返りシートの分析 などから、評価します。
法	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	世界を広げる	2読むこと	なぜ本を読むのか	・筆者の考える読書の効用について、文章構成を理解し、自分に照らして考えを深める。 ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。	2	小テスト等 ワークシートの確認、分析
	話して伝える	2話すこと	話し方の工夫	・話し言葉と書き言葉の特徴を理解する。 ・相手・目的・場面に応じた言葉遣いを理解する。	2	成果物の内容 ワークシートの確認
5	書いて伝える	5書くこと	書き方の基礎レッスン	・表記・表現の基本ルールを理解する。 ・接続表現の種類や用法を理解する。	5	成果物の内容 ワークシートの確認
	言葉が開く世界	3読むこと	言葉遣いとアイデンティティ	・人間関係を調整する「言葉」と「言葉遣い」の役割について、具体的事例とともに理解を深める。 ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。	3	小テスト等 ワークシートの確認、分析
6	話して伝える	2話すこと	待遇表現	・敬語表現を意識した言葉遣いを理解する。 ・相手や場に応じた表現が選択できるようになる。	2	成果物の内容 ワークシートの確認
	人間と文化	3読むこと	水の東西	・東西の対比関係を用いながら、日本の水文化に見られる特徴について論じる叙述の方法を把握する。 ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。	3	小テスト等 ワークシートの確認、分析
7	話して伝える	2話すこと	論理的な表現	・説得力を意識した表現のしかたについて理解する。	2	成果物の内容 ワークシートの確認
	書いて伝える	5書くこと	身近な製品の取り扱い 説明書を作成する	・情報を的確に説明する方法を理解する。 ・情報を相手にわかりやすく説明する方法を理解する。	5	成果物の内容 ワークシートの確認
8	話して伝える	2話すこと	情報源の探索と選択	・必要な情報を探す方法を理解する。 ・情報の信頼性や妥当性の吟味のしかたを理解する。 ・情報の探索と選択を実践できるようになる。	2	成果物の内容 ワークシートの確認
9	生活の中の表現	3読むこと	図書委員会のポスターの掲示内容を検討する	・与えられた資料と会話文を関連づけながら、課題に即して必要な情報を読み取り、活用する。 ・文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容を解釈する方法を学ぶ。	3	小テスト等 ワークシートの確認、分析
	話して伝える	2話すこと	情報源の明示	・引用の目的とその効用を理解する。 ・引用の具体的な方法を理解する。	2	成果物の内容 ワークシートの確認
10	社会と人間	3読むこと	人はなぜ仕事をするのか	・本文で使われている「パス」という言葉の意味を考え、筆者が述べる仕事の本質について考察する。	3	小テスト等 ワークシートの確認、分析
	書いて伝える	5書くこと	実用的な手紙文の書き方	・実用的な手紙文として、依頼文と案内文の書き方を理解し、実践する。 ・相手に情報を適切に伝える文章の書き方を習得する。	5	成果物の内容 ワークシートの確認

11	現代と社会	3読むこと	イースター島にはなぜ森がないのか	・イースター島の歴史について理解し、筆者が提示する人類と生態系のあり方について考察する。 ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。	3	小テスト等 ワークシートの確認、分析
	話して伝える	2話すこと	スピーチで自分を伝える	・自分の意見を大勢の聞き手にわかりやすく伝えるスピーチの方法を理解し、実践する。 ・他の人のスピーチを聞き取り、評価する方法を学ぶ。	2	成果物の内容 ワークシートの確認
12	書いて伝える	5書くこと	地域の魅力を紹介する	・情報を的確に紹介する方法を理解する。 ・必要な情報や資料を収集・整理し、わかりやすい紹介文を書くために活用する方法を理解する。	5	成果物の内容 ワークシートの確認
	論理分析	3読むこと	「間」の感覚	・文章を分析的に読み、対比構造を用いた論理の展開について理解する。 ・文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、文章の構成や論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。	3	小テスト等 ワークシートの確認、分析
1	話して伝える	2話すこと	自校の生徒の実態調査をする	目的に沿って的確に案内する方法を理解する。 ・進んで表現や話し方を工夫し、今までの学習を生かして効果的に話そうとしている。	2	成果物の内容 ワークシートの確認
	書いて伝える	5書くこと	自校の生徒の実態調査をする	・相手と目的に応じた報告文のあり方を理解する。 ・目的に沿った調査の方法を理解し、実践する。 ・報告文の書き方を理解し、実践し、評価する。	5	成果物の内容 ワークシートの確認
2	話して伝える	3話すこと	理想の修学旅行をプレゼンする	・情報を大勢の聞き手にわかりやすく説明するプレゼンテーションの方法を理解し、実践する。	3	成果物の内容 ワークシートの確認
	書いて伝える	5書くこと	社会に対する意見文を書く	・意見文とはどういうものかを理解する。 ・自分の経験の中から意見を導き出せるようになる。	5	成果物の内容 ワークシートの確認
3	話して伝える	3話すこと	合意形成のための話し合いを行う	・話し合いの進め方のルールを理解する。 ・論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、話し合いを実践する。	3	成果物の内容 ワークシートの確認

計 70 時間 (50 分授業)

※ 領域ごとの授業時数合計

「話すこと・聞くこと」	20時間	「書くこと」	30時間	「読むこと」	20時間
-------------	------	--------	------	--------	------

7 課題・提出物等

- ・毎週漢字の小テストを行います。合格するように学習してください。
- ・適宜、ワークシートやノートを点検します。必ず提出してください。
- ・長期休業中には課題が指示されます。その課題をもとにテストがありますので意欲的に取り組んでください。

8 担当者からの一言

科目「現代の国語」は実社会や実生活で生きていくために必要な「言葉の力」を育む科目です。「話す力・聞く力」「書く力」「読む力」をバランス良く身につけます。この力は高校3年間だけではなく、生涯を支える力となります。意欲的な取り組みを期待します。

教科(科目)	国語（言語文化）	単位数	2単位	学年(コース)	1学年 必修
使用教科書	第一学習社『高等学校 標準言語文化』				
副教材等	第一学習社『標準言語文化学習課題集』他				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～上越地域唯一の商業を専門とした高等学校として、生徒の多様な進路に対応した教育活動を行います～ ①1年生では基礎学力の充実に努めるとともに、積極的に将来の自分について探求する姿勢を育成します。 ②2年生では商業科目を系統的に学習することを通して、高い専門性を追求します。 ③3年生では学校の教育活動全体を通して、実社会で必要とされるビジネスマナーの習得を目指します。 ④各学年における探究的な学習活動や体験学習、教科横断的な学習により、深い学びを実践していきます。
カリキュラム・ポリシー	～このような生徒を求めています～ ①将来は自分でお店を持つなど、起業に関心がある生徒。 ②事務や販売などの仕事につくことを目指しており、そのための知識を学びたい生徒。 ③生まれ育った地域のために自分に何が出来るか考えている生徒。 ④新しいことに挑戦してみたいという積極性があり、進路希望実現のために努力を惜しまない生徒。 ⑤健康的で規則的な生活習慣をもち、ルールやマナーを守れる生徒。

2 学習目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 ・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
--

3 指導の重点

①常用漢字の読み書きを習得するとともに、語感を磨き語彙を豊かにすることを目指します。 ②文章の構成、展開、内容を的確にとらえた上で、自らのものの見方や感じ方、考え方を深めることを目指します。 ③自分の思いや考えを、文章の種類、文体、構成などを工夫しながら効果的に伝えられるようになることを目指します。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めようとしている。	「書くこと」「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしようとしている。	言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。

5 評価基準と評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査 ・レポートやワークシート等の内容 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査 ・レポートやワークシート等の内容 ・振り返りシートの記述 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の取り組み ・レポートやワークシート等の内容 ・振り返りシートの記述 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
<u>4</u>	小説を読む (一)	4 読むこと	とんかつ	・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・小説の内容や構成、展開を的確に捉え、内容を解釈する。	4	小テスト等 ワークシートの確認、分析
<u>5</u>	古文入門	4 読むこと	児のそら寝	・文語のきまりを学ぶ。 ・古文に慣れ、内容や展開を的確に捉える。	4	小テスト等 ワークシートの確認
<u>6</u>	小説を読む (二)	8 読むこと	羅生門	・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・小説の内容や構成、展開を的確に捉え、内容を解釈する。	8	小テスト等 ワークシートの確認、分析
<u>7</u>	古文に親しむ	10 読むこと	なよ竹のかぐや姫	・古文の文章に慣れ、内容や展開を的確に捉える。	10	小テスト等 ワークシートの確認、分析
	短歌と俳句	2 読むこと	清水へ	・動詞の活用を学ぶ。 ・短歌の鑑賞のしかたを理解し、作品に表れるものの見方を捉えて内容を解釈する。	2	小テスト等 ワークシートの確認
		3 書くこと	折り句を用いて短歌を作る	・折り句という表現技法を理解し、感じたことを短歌で表現してみる。	3	成果物の内容 ワークシートの分析
<u>8</u>	漢文入門	5 読むこと	訓読に親しむ	・訓読の基礎知識を習得する。 ・日本文化と外国文化の関係を理解する。	5	学習課題集 ワークシートの分析
<u>9</u>	故事成語	10 読むこと	矛盾 蛇足	・訓読に慣れ、内容や展開を的確に捉える。	10	学習課題集 ワークシートの分析
<u>10</u>	歌物語を読む	6 読むこと	伊勢物語	・古典の言葉と現代の言葉のつながりを理解する。 ・歌物語という文章の種類を踏まえて展開や内容を的確に捉える。	6	学習課題集 ワークシートの確認、分析
<u>11</u>		4 書くこと	古典の和歌を現代の言葉で書き換える	・助動詞の働きを学ぶ。 ・「伊勢物語」との関係性を踏まえて本文を読み、解釈を深める。 ・和歌を書き換え、互いの解釈を比べ合う。	4	成果物の内容 小テスト等 ワークシートの確認、分析
<u>12</u>	小説を読む (二)	4 読むこと	公園	・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・小説の内容や構成、展開を的確に捉え、内容を解釈する。	5	成果物の内容 ワークシートの確認 成果物の内容
<u>1</u>	漢詩の鑑賞	5 読むこと	唐詩の世界	・漢詩の技法を学び、鑑賞する。 ・作品の歴史的、文化的背景を知る。	2	ワークシートの確認 成果物の内容
<u>2</u>	伝統と文化	2 読むこと	祭りの笛	・随筆の読み方を学ぶ。 ・内容を効果的に伝える工夫を理解する。	3	学習課題集 ワークシートの確認
<u>3</u>		3 書くこと	「祭り」をテーマに随筆を書く	・伝統文化についての随筆を、効果的に伝える工夫をして書く。		小テスト等 ワークシートの確認

計 70 時間 (50 分授業)

※ 領域ごとの授業時数合計

領域ごとの授業時数合計	
「書くこと」 10 時間	「読むこと」 古典：40 時間 近代以降の文章：20 時間

7 課題・提出物等

- ・単元ごとに振り返りシートに記入し、提出します。
- ・長期休業中の課題は別途指示します。

8 担当者からの一言

古文でも漢文でも小説でも随筆でも、作者が伝えようとしていることを理解し、共感することができるようになります。読むこと自体が楽しくなるものです。楽しみながら、社会で生きていく上で必要不可欠な言語の力を身につけることができたら最高です。がんばりましょう。

教科(科目)	公民科（公共）	単位数	2単位	学年(コース)	1学年 必修
使用教科書	実教出版『公共』				
副教材等	帝国書院『ライブ！ 2024 公共、現代社会を考える』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を持つ生徒を育成します～ ①社会の発展に貢献しようとする大きな志を持って、主体的に地域の生活を創造できる能力を持つ生徒を育成します。 ②ビジネスシーンにおいて様々な他者と関わり、チームワークを重んじながら課題を発見し、解決への道筋を立てる力を備えた生徒を育成します。 ③自己を管理する力を持ち、市民としての社会的責任を自覚する勤勉な態度の生徒を育成します。 ④世界には多様な価値観があることを理解し、自分の考えを適切な言葉で表現し、コミュニケーションを図ることが出来る生徒を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～上越地域唯一の商業を専門とした高等学校として、生徒の多様な進路に対応した教育活動を行います～ ①1年生では基礎学力の充実に努めるとともに、積極的に将来の自分について探求する姿勢を育成します。 ②2年生では商業科目を系統的に学習することを通して、高い専門性を追求します。 ③3年生では学校の教育活動全体を通して、実社会で必要とされるビジネスマナーの習得を目指します。 ④各学年における探究的な学習活動や体験学習、教科横断的な学習により、深い学びを実践していきます。

2 学習目標

人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和的で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育てる。 (1) 倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる (2) よりよい社会の実現に向けて、多面的・多角的に考察、構想したことを社会生活に生かそうとする態度 (3) 我が国が直面する課題の解決に向けて主体的に社会に関わりようとする態度
--

3 指導の重点

・現代の諸課題を考察し、諸資料から、情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けさせます。 ・現実社会の諸課題の解決に向けて、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を身に付けさせます。 ・国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚を深めさせます。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を身に付けている。	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚を深めている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・レポートやワークシート、提出物などの内容の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・ワークシートの記述の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートや提出物などの内容の分析 ・ワークシートの記述の分析 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	社会を作る私たち	9		・人生における青年期の意義を理解する。 ・青年期において直面する葛藤や欲求不満などの困難とその対処法を理解する。 ・望ましい社会のあり方と自己の生き方との関係について考える。	3	ペーパーテストの分析 ワークシートの記述
	人間としてよく生きる			・理想的な人間の生き方についてのソクラテス、プラトン、アリストテレスの主張を理解する。 ・近代ヨーロッパでうまれた、科学的思考を理解する。 ・自由についてのカントとヘーゲルの主張を理解する。	4	ペーパーテストの分析
5	他者とともに生きる			・功利主義の考え方を理解する。 ・社会の公正なあり方について思索したロールズとセンの主張を理解する。	2	ペーパーテストの分析
	民主社会の倫理			・人間の尊厳と平等といった原理の背景にある考え方を理解する。 ・世代間の正義にかかわる問題について、具体的な事例を通じて考える。	1 2	中間考査 授業中の発言、発表や討論への取組の観察
6	民主国家における基本原理	11		・民主政治の誕生と発展について理解する。 ・民主政治の意義と課題について理解する。 ・議院内閣制・大統領制をはじめとする各国の政治制度について理解する。	5	ペーパーテストの分析
	日本国憲法の基本的性格(1)			・日本国憲法の成立の経過について理解する。 ・日本国憲法の基本原理について理解する。 ・自由権、平等権、社会権の内容について理解する。	5 1	ペーパーテストの分析 期末考査 提出物の内容の分析
7	日本国憲法の基本的性格(2)			・新しい人権について理解する。 ・日本の安全保障政策の展開について理解する。	5	ペーパーテストの分析 授業中の発言、発表や討論への取組の観察
8	日本の政治機構と政治参加(1)			・こころの安全保障政策の課題について理解する。 ・国会の役割や権限について理解する。	7	ペーパーテストの分析
9		13		・内閣の権限と議院内閣制について理解する。 ・司法制度のあり方や司法参加の意義について理解する。	1	二学期中間考査
10	日本の政治機構と政治参加(2)			・地方自治の本旨や住民の権利について理解する。 ・日本の政党政治の特徴と課題について理解する。 ・日本の選挙制度の特徴と課題について理解する。	4	ペーパーテストの分析
11	現代の経済社会			・マス・メディアや市民運動の意義について理解する。 ・経済的な効率性と公平性の対立関係について考える。 ・政府の規模を念頭として、経済的な課題への対応を考える。		授業中の発言、発表や討論への取組の観察
				・需給曲線を通して市場メカニズムを考える。 ・企業の役割と社会的責任について考える。 ・金融を通じた経済活動の活性化について考える。 ・財政の持つ様々な役割について考える。 ・納税者としての立場から租税の在り方について考える。	11 1	ペーパーテストの分析 ワークシートの記述 二学期期末考査
12	日本経済の特質と国民生活	16		・歴史的な事象が日本経済に与えた影響を、統計資料を基に考える。 ・人口減少社会と格差・貧困が経済に与える影響を考える。 ・日本的雇用形態の変化や、ワーク・ライフ・バランスについて考える。	10	ペーパーテストの分析 授業中の発言、発表や討論への取組の観察
1						

2		10		・日本の社会保障制度のしくみについて、諸外国の制度との比較も含めて考える。 ・少子高齢化が進行する中で、財源と対象を検討する。 ・国際政治や国際法を国内政治や国内法との比較で考える。 ・国際連合の活動を、主要機関や専門機関の働きから考える。 ・持続可能な地域、国家・社会、国際社会づくりのための諸課題を探究する。	4	ワークシートの記述 提出物の内容の分析
	国際政治の動向と課題	4			1	レポートの内容の分析 学年末考査
3	持続可能な社会づくりの 主体となる私たち	5			3	授業中の発言、発表や討 論への取組の観察

計 70 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

- ・定期考査ごとに課題の点検をします。必ず提出してください。
- ・適宜、ワークシートを配付します。主体的に取り組みましょう。
- ・自宅学習用の課題を配付します。計画的に学習を進めましょう。

8 担当者からの一言

これからの世の中を支えていく一人の人間として、みなさんには世の中の動きに関心をもってほしいと思います。事実を基に社会を考察し、公正に判断する力をしっかりと身に付けていきましょう。情報を正しく読み取る能力も求められています。また、情報を適切に発信する能力も必要です。科目「公共」を楽しみましょう！

教科(科目)	数学(数学Ⅰ)	単位数	3単位	学年(コース)	1学年 必修
使用教科書	実教出版『新編 数学Ⅰ』				
副教材等	実教出版『スパイラル 数学Ⅰ+A』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～上越地域唯一の商業を専門とした高等学校として、生徒の多様な進路に対応した教育活動を行います～ ①1年生では基礎学力の充実に努めるとともに、積極的に将来の自分について探求する姿勢を育成します。 ②2年生では商業科目を系統的に学習することを通して、高い専門性を追求します。 ③3年生では学校のエデュケーション全体を通して、実社会で必要とされるビジネスマナーの習得を目指します。 ④各学年における探究的な学習活動や体験学習、教科横断的な学習により、深い学びを実践していきます。
カリキュラム・ポリシー	～このような生徒を求めています～ ①将来は自分でお店を持つなど、起業に関心がある生徒。 ②事務や販売などの仕事につくことを目指しており、そのための知識を学びたい生徒。 ③生まれ育った地域のために自分に何が出来るか考えている生徒。 ④新しいことに挑戦してみたいという積極性があり、進路希望実現のために努力を惜しまない生徒。 ⑤健康的で規則的な生活習慣をもち、ルールやマナーを守れる生徒。

2 学習目標

- 数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成する事を目指す。
- (1)数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数式化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
 - (2)命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的に見たり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。
 - (3)数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

3 指導の重点

- ・高等学校の数学の基礎となる知識、および計算力を習得する。
- ・集合と命題に関する基本的な概念を用いてものごとを論理的に考え、表現する仕方を習得する。
- ・二次関数のグラフを利用して、最大値や最小値を求め、二次不等式を解けるようにする。
- ・図形と計量の基本的な性質について理解し、日常生活の中での事象に関連づけ、その有用性を実感することができるようにする。
- ・分散や標準偏差などの基本的な統計量を求め、データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を習得し、事象の特徴を表現できるようにする。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・事象を数式化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	・数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統一的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。	・数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしたりしている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテスト(定期考査、課題テスト、小テスト等)の分析 ・長期休業中の課題等の提出物などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテスト(定期考査、課題テスト、小テスト等)の分析 ・長期休業中の課題等の提出物 ・授業の取り組み(授業態度、発言の様子、学習活動への参加状況など)などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・長期休業中の課題等の提出物 ・授業の取り組み(授業態度、発言の様子、学習活動への参加状況など)などから、評価します。
	内容のまとめりごとに、各観点 「A:十分に満足できる」、「B:おおむね満足できる」、「C:努力を要する」 で評価します。 内容のまとめりごとの評価基準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動(指導内容)	授業 時数	評価方法
4	1章 数と式	式の計算	整式の加法・減法・乗法、および因数分解について理解を深め、公式などを利用して整式の展開や因数分解を能率よく計算できるようにする。	13	定期考査 課題テスト 小テスト 課題等の提出状況 授業の取り組み
5		実数	実数の概念や平方根を含む計算の基本的な考え方について理解できるようにする。	6	
6		1次不等式	1次不等式の解法に習熟させ、大小に関する身近な問題の解決に活用できるようにする。	8	
7	2章 集合と論証	集合と論証	集合に関する基本的な事項を理解し、必要条件、十分条件、必要十分条件、対偶などを学習することを通して、論理的な思考力を一層伸ばす。	10	定期考査、課題テスト、小テスト、課題等の提出状況、授業の取り組み
9	3章 2次関数	2次関数とそのグラフ	2次関数のグラフの概形を平行移動の考え方を利用して描けるようにする。最大値や最小値を求める具体的な問題の解決に活用できるようにする。与えられた放物線のグラフや条件から、その2次関数を定められるようにする。	16	定期考査 課題テスト 小テスト 課題等の提出状況 授業の取り組み
10		2次方程式と2次不等式	2次関数のグラフを利用して2次方程式や2次不等式の解について理解し、2次不等式の解法に習熟させる。	13	
11	4章 図形と計量	三角比	三角比(正接・正弦・余弦)の概念を導入し、長さに関する身近な問題の解決に活用できるようにする。	12	定期考査 課題テスト 小テスト 課題等の提出状況 授業の取り組み
12		三角比と図形の計量	三角形の面積の公式や正弦定理・余弦定理について学習し、それらを用いて、平面や空間における図形の辺の長さや角の大きさおよび面積などを求められるようにする。	11	
1	5章 データの分析	データの整理	平均値・最頻値・中央値・四分位数・箱ひげ図について復習し、データの散らばりのようすをとらえる概念として、整理し、理解させる。	5	定期考査 課題テスト 小テスト 課題等の提出状況 授業の取り組み
2		データの分析	分散、標準偏差について理解させる。	5	
3	課題学習	黄金比 円周率 π の近似値 鳥の体重と翼の面積	身近な生活の中に、黄金比が見られるものを調べる。相似の関係から黄金比を考察する。 円周率の求め方について、自ら考えようとする。多角形の計量による円周率の計算方法を考察する。 データの特性を調べるのに適した方法を選ぶ。 外れ値の扱い方について考察する。	6	課題等の提出状況 授業の取り組み

計105時間(50分授業)

7 課題・提出物等

長期休業中における課題、授業の中で配付する演習プリント、副教材の問題演習、授業ノート

8 担当者からの一言

授業は基礎・基本の習得を目標に行います。テストだけではなく、毎回の授業の取り組み状況も重視しますので、授業には積極的に参加しましょう。そして授業の中の「なぜ?」は積極的に質問し、最後には「わかった」となるように努力をしましょう。また、授業だけではなかなか身に付くものではありません。問題演習を数多くこなし、確かな力を身に付けてください。そのためにも家庭学習の充実を心掛けて下さい。

教科(科目)	理科（生物基礎）	単位数	2単位	学年(コース)	1学年 必修
使用教科書	第一学習社 『高等学校 新生物基礎』				
副教材等	第一学習社 『新課程版 ネオパルノート生物基礎』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～上越地域唯一の商業を専門とした高等学校として、生徒の多様な進路に対応した教育活動を行います～ ①1年生では基礎学力の充実に努めるとともに、積極的に将来の自分について探求する姿勢を育成します。 ②2年生では商業科目を系統的に学習することを通して、高い専門性を追求します。 ③3年生では学校の教育活動全体を通して、実社会で必要とされるビジネスマナーの習得を目指します。 ④各学年における探究的な学習活動や体験学習、教科横断的な学習により、深い学びを実践していきます。
カリキュラム・ポリシー	～このような生徒を求めています～ ①将来は自分でお店を持つなど、起業に関心がある生徒。 ②事務や販売などの仕事につくことを目指しており、そのための知識を学びたい生徒。 ③生まれ育った地域のために自分に何が出来るか考えている生徒。 ④新しいことに挑戦してみたいという積極性があり、進路希望実現のために努力を惜しまない生徒。 ⑤健康的で規則的な生活習慣をもち、ルールやマナーを守れる生徒。

2 学習目標

日常生活や社会との関連を図りながら生物や生命現象への関心を高める。目的意識をもって観察、実験等を行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。（1）自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。（2）観察、実験などを通して、記録・考察を行い、科学的に探究を進める力を養う。（3）自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

3 指導の重点

・ヒトのからだや身近な生物を材料とした観察、実験を行い、生物は多様でありながら共通性をもっていることを理解させる。あわせて、生命に対する畏敬の念を育成する。

・最新の生物学的知見、話題を織り交ぜながら、現代生物学の基礎となる遺伝子・代謝・免疫・生態系に関わる基礎的な内容を理解させる。

・観察や実験を通して、仮説の設定、実験計画の策定、実験による検証、データ分析、考察を行わせ、自然を科学的に探究する能力を育成する。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
自然の事物・現象について基本的な概念や原理・法則を理解している。自然の事物・現象を科学的に探究するための知識と技能を身につけているようにしている。	自然の事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現しようとしている。	自然の事物・現象を積極的に観察し、科学的に捉え、理解しようとする態度を身につけようとしている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査 ・実験時の内容理解や操作状況 ・実験レポートの内容 ・提出された問題集や課題の内容 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査 ・実験レポートの内容 ・提出された問題集や課題の内容 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の質疑応答 ・ワークやプリントでの作図や計算問題等への取り組み ・提出された課題の内容 ・グループ討議やレポートの内容 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	第1章 生物の特徴	2	高等学校新 生物基礎 新 課 程 版 ネオパルノ ート生物基 礎	生物の共通性と多様性	2	〈 授業時 〉 ・授業中の取り組み (発問・発表・質疑 応答等) ・演習問題への取り 組み ・ワークへの記入・ 作図などの作業
5		2		細胞の構造・種類・大きさ	2	
5		1		実験観察 ① 顕微鏡の使い方	1	
5		1		実験観察 ② プレパラートの作り方	1	
6		1		実験観察 ③ 原形質流動の観察	1	
6		1		実験観察 ④ ヨウ素デンプン反応	1	
6		2		代謝とエネルギー代謝、ATP	2	
6		3		代謝と酵素	3	
6		2		実験観察 ⑤ カタラーゼの働き	2	
6		2		光合成と呼吸	2	
7	1学期期末考査	1			1	〈 実験時 〉 ・実験操作の正確さ ・記録の正確さ ・グループ討議の 様子
7		2		実験観察 ⑥ 色素の分離	2	
8	第2章 遺伝子とそ の働き	1		実験観察 ⑦ アルコール発酵	1	・レポートの内容 ・準備・後片付け
8		3		遺伝情報とDNA	3	
8		2		実験観察 ⑧ DNAの抽出	2	・提出された課題の 内容
8		2		DNAの構造	2	
9		2		実験観察 ⑨ DNA分子モデル作成	2	・定期考査
9		3		DNAの複製・分配	3	
10	2学期中間考査	3		タンパク質の構造と働き	3	
10		1			1	
10		2		血液・組織液・リンパ液	2	
10		2		恒常性の維持	2	
11		3		ホルモン	3	
11		3		自律神経系	3	
11		3		血糖量調節	3	
11		1		体温調節	1	
12	2学期期末考査	1			1	
12		2		ホルモンの働き	2	
12		3		免疫と白血球	3	
12		3		自然免疫	3	
1		3		獲得免疫	3	
1		3		免疫と疾病・医療	3	
2	学年末考査	1			1	
2		1		実験観察 ⑩ だ腺染色体	1	
3		1		実験観察 ⑪ リモネンの働き	1	
3		1		実験観察 ⑫ 生物とpH	1	

計 70 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

・授業時に配付される課題プリント ・実験時に配付されるレポート ・問題集

8 担当者からの一言

生命現象への理解を深めることによって、生命の不思議さと重要性を知ってもらいたい。実験活動は班単位で行う場合が多く、協力して良いレポートを作成してほしい。提出物は、期限を守り、確実に提出すること。

教科(科目)	保健体育（体育）	単位数	3単位	学年(コース)	1学年 必修
使用教科書	大修館書店『現代高等保健体育』				
副教材等	大修館書店『現代高等保健体育ノート』 ＊保健と兼ねる				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を持つ生徒を育成します～ ①社会の発展に貢献しようとする大きな志を持って、主体的に地域の生活を創造できる能力を持つ生徒を育成します。 ②ビジネスシーンにおいて様々な他者と関わり、チームワークを重んじながら課題を発見し、解決への道筋を立てる力を備えた生徒を育成します。 ③自己を管理する力を持ち、市民としての社会的責任を自覚する勤勉な態度の生徒を育成します。 ④世界には多様な価値観があることを理解し、自分の考えを適切な言葉で表現し、コミュニケーションを図ることが出来る生徒を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～上越地域唯一の商業を専門とした高等学校として、生徒の多様な進路に対応した教育活動を行います～ ①1年生では基礎学力の充実に努めるとともに、積極的に将来の自分について探求する姿勢を育成します。 ②2年生では商業科目を系統的に学習することを通して、高い専門性を追求します。 ③3年生では学校のエデュケーション全体を通して、実社会で必要とされるビジネスマナーの習得を目指します。 ④各学年における探究的な学習活動や体験学習、教科横断的な学習により、深い学びを実践していきます。

2 学習目標

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 〈知識・技能〉 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。 〈思考・判断・表現〉 運動や健康についての自他や社会の課題発見し、合理的、計画的に解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。 〈主体的に取り組む態度〉 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。
--

3 指導の重点

- ①運動の実践を通して、高校生らしい心身の発達と体力の向上を図ります。
- ②各競技の特性を理解し、スポーツの楽しさや喜びを味わうことができるようにします。
- ③運動の実践や準備・後片付けを通して公正、協力、責任などの態度を育てます。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに、目的に応じた技能を身に付けている。また、個人及び社会生活における健康・安全について総合的に理解しているとともに、技能を身に付けている。	自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。また、個人及び社会生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して総合的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。また、健康を大切にし、自他の健康の保持増進や回復及び健康な社会づくりについての学習に主体的に取り組もうとしている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 ・技能テスト などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言・討論への取組の観察 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言・取組の観察 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	集団行動 体づくり運動	10	保健ノート	姿勢、整列、列の増減、方向変換 各種体づくり運動	10	観察
5	体育理論	3		運動・スポーツの文化的特徴	3	保健ノート(点検)
6	バスケットボール 【雨天時】	15		パス・ドリブル・シュートなどの基 礎技能の習得	15	観察 技能テスト
7	球技・武道選択① 【好天時】	15		サッカー・ソフトテニス・ソフトボ ール・柔道から選択	15	観察 技能テスト
8 9	4領域選択②	15		陸上競技(跳・投種目)・器械運動・ ダンスから選択	15	観察 技能テスト
10	陸上競技	8		持久走(男子:4.0Km 女子: 3.0Km)	8	観察 記録(技能評価)
11	バレーボール	15		パス・サーブ・スパイクなどの基礎 技能の取得	15	観察 技能テスト
12	体づくり運動	6		縄跳び等	6	観察 技能テスト
1 2	球技・武道選択②	15		バスケットボール・バレーボール・ バドミントン・柔道から選択	15	観察 技能テスト
3	体育理論	3		運動・スポーツの文化的特徴	3	保健ノート(点検)

計 105 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

- ・種目ごとに技能テストを実施します。一生懸命取り組みましょう。
- ・長期見学者は見学ノートやレポートを提出します。
- ・体育理論は、「保健体育ノート 体育編」の提出と筆記試験で評価します。

8 担当者からの一言

- ・1年次では基礎体力向上や基礎技能の習得に主眼が置かれた内容となっています。欠席なく参加しましょう。
- ・多くの仲間と関わりながらスポーツすることで、豊かな心が育まれることを期待しています。

教科(科目)	保健体育（保健）	単位数	1単位	学年(コース)	1学年 必修
使用教科書	大修館書店『現代高等保健体育』				
副教材等	大修館書店『現代高等保健体育ノート』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を持つ生徒を育成します～ ①社会の発展に貢献しようとする大きな志を持って、主体的に地域の生活を創造できる能力を持つ生徒を育成します。 ②ビジネスシーンにおいて様々な他者と関わり、チームワークを重んじながら課題を発見し、解決への道筋を立てる力を備えた生徒を育成します。 ③自己を管理する力を持ち、市民としての社会的責任を自覚する勤勉な態度の生徒を育成します。 ④世界には多様な価値観があることを理解し、自分の考えを適切な言葉で表現し、コミュニケーションを図ることが出来る生徒を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～上越地域唯一の商業を専門とした高等学校として、生徒の多様な進路に対応した教育活動を行います～ ①1年生では基礎学力の充実に努めるとともに、積極的に将来の自分について探求する姿勢を育成します。 ②2年生では商業科目を系統的に学習することを通して、高い専門性を追求します。 ③3年生では学校の教育活動全体を通して、実社会で必要とされるビジネスマナーの習得を目指します。 ④各学年における探究的な学習活動や体験学習、教科横断的な学習により、深い学びを実践していきます。

2 学習目標

保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成する。

〈知識・技能〉個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。

〈思考・判断・表現〉健康についての自他や社会の課題発見し、合理的、計画的に解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。

〈主体的に取り組む態度〉生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

3 指導の重点

健康に関する興味・関心や課題解決への意欲を高めるとともに、知識を活用する学習活動を重視して、思考力・判断力等を育てます。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。	健康についての自他や社会の課題発見し、合理的、計画的に解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を身につける。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を実践する。

5 評価方法

評価方法	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、	以上の観点を踏まえ、	以上の観点を踏まえ、
	学期ごとの定期考査 保健ノートやレポートなどの提出物などの内容確認 などから、評価します。	学期ごとの定期考査 保健ノートやレポートなどの提出物などの内容確認 などから、評価します。	学期ごとの定期考査 保健ノートやレポートなどの提出物などの内容確認 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」 で評価します。 内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	現代社会と健康	10	保健ノート	1 健康の考え方と成り立ち	2	授業中の発言 (行動の確認) 討議の様子(観察) 保健ノート (記述の確認)
				2 私たちの健康のすがた	2	
				3 生活習慣病と予防と回復	2	
5				4 がんの原因と予防	1	
				5 がんの治療と回復	1	
6				6 運動と健康	1	
				7 食事と健康	1	
7		10		8 休養・睡眠と健康	1	
				9 喫煙と健康	1	
8				10 飲酒と健康	2	
				11 薬物乱用と健康	2	
9				12 精神疾患の特徴	2	
				13 精神疾患の予防	1	
				14 精神疾患からの回復	1	
10		8		15 現代の感染症	2	
				16 感染症の予防	2	
				17 性感染症・エイズとその予防	1	
				18 健康に関する意思決定・行動選択	2	
				19 健康に関する環境づくり	1	
11	安全な社会生活	7	1 事故の現状と発生要因	1		
			2 安全な社会の形成	2		
			3 交通における安全	1		
1			4 応急手当の意義とその基本	1		
2			5 日常的な応急手当	1		
3			6 心肺蘇生法	1		

計 35 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

学期ごとに定期考査があります。
保健体育ノートやレポートなどの提出があります。

8 担当者からの一言

身近な健康問題や健康の考え方について学び、健やかな生活が送れるようにしていきましょう。

教科(科目)	外国語科(英語コミュニケーションⅠ)	単位数	単位	学年(コース)	1学年 必修
使用教科書	数研出版『BIG DIPPER English Communication Ⅰ』				
副教材等	数研出版『BIG DIPPER English Communication Ⅰワークブック』、旺文社『英単語ターゲット1200』、旺文社『書き込み式ノート英単語ターゲット1200Workbook1』、文英堂『WISH 総合英語』、文英堂『WISH ENGLISH GRAMMAR 21UNITS』他				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～上越地域唯一の商業を専門とした高等学校として、生徒の多様な進路に対応した教育活動を行います～ ①1年生では基礎学力の充実に努めるとともに、積極的に将来の自分について探求する姿勢を育成します。 ②2年生では商業科目を系統的に学習することを通して、高い専門性を追求します。 ③3年生では学校の教育活動全体を通して、実社会で必要とされるビジネスマナーの習得を目指します。 ④各学年における探究的な学習活動や体験学習、教科横断的な学習により、深い学びを実践していきます。
カリキュラム・ポリシー	～このような生徒を求めています～ ①将来は自分でお店を持つなど、起業に関心がある生徒。 ②事務や販売などの仕事につくことを目指しており、そのための知識を学びたい生徒。 ③生まれ育った地域のために自分に何が出来るかを考えている生徒。 ④新しいことに挑戦してみたいという積極性があり、進路希望実現のために努力を惜しまない生徒。 ⑤健康的で規則的な生活習慣をもち、ルールやマナーを守れる生徒。

2 学習目標

英語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。 (2)コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、英語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。 (3)外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。
--

3 指導の重点

(1)日常的・社会的な話題について、必要な情報を読んだり聞いたりして、話し手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりできること。 (2)日常的・社会的な話題について、基本的な語句や文を用い、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けたり、論理性に注意して話して伝え合ったりできること。 (3)日常的・社会的な話題について、基本的な語句や文を用い、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話したり文章を書いたりして伝えることができること。
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・文章を聴き取る(読み取る)ために必要となる語彙や表現、文の構造を理解している。 ・情報や考えを述べる(伝え合う・書く)ために必要となる語彙や表現、音声等を理解している。 ・英文を聴き取る(読み取る)技能を身につけている。 ・日常的な話題や社会的な話題についての情報や考えを理由と共に話して伝える(伝え合う・書く)技能を身につけている。	目的や場面、状況などに応じて、 ・英語を聞いて、概要や要点をとらえている。 ・英語を読んで、概要や要点をとらえている。 ・情報や自分の考えなどを聞いたり読んだりしたことを元、理由と共に英語で書いている。 ・情報や自分の考えなどを聞いたり読んだりしたことを元、理由と共に英語で話している。(伝え合っている)	・文化に対する理解を深めようとしている。 ・授業や課題に粘り強く取り組もうとしている。 ・学習の進め方について、自分で調整しようとしている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、ペーパーテストやパフォーマンステスト、単元テスト等の分析、レポートやワークシート、課題、提出物などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、ペーパーテストやパフォーマンステスト等の分析、授業中の発言、発表や討論への取り組みの観察、レポートやワークシート、課題、提出物などの内容の確認などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、授業中の発言、発表や討論への取り組みの観察、レポートやワークシート、課題、提出物などの内容の確認、振り返りリポートの記述の分析などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	健康/学校生活	13 [聞くこと] [読むこと] [書くこと] [話すこと(発表)]	Lesson 1 Have a Good Day with a Good Breakfast	- 世界のさまざまな朝食について、聞き取る - 朝食の重要性やよい朝食の条件について書かれた文章や朝食のレシピを読み取る - 動詞の現在形・過去形・未来を表す表現、現在完了、現在進行形、命令文を理解する - 単元テスト	13	ワークシート(記述の確認) ワークシート(記述の点検) 発表の様子(行動の確認)
5	社会/日本文化	14 [聞くこと] [読むこと] [話すこと(発表)]	Lesson 2 A Mascot with a Mission	- 町おこしについての説明を聞き取る - 町おこしやご当地マスコットについて書かれた文章や新聞記事の内容を読み取る - SVC, SVO, 受動態、不定詞を用いた文構造を理解する - 単元テスト	14	ワークシート(記述の確認) ワークシート(記述の点検) 発表の様子(行動の確認)
中間考査						
6	心理/ 社会	13 [聞くこと] [読むこと] [話すこと(やりとり)]	Lesson 3 Two Kinds of Leadership	- さまざまなリーダーに関する英文を聞き取る - 異なる2つのリーダーシップのタイプや指導者の適性について概要を読み取る - 受動態、関係代名詞、SVOO, SVOC を用いた文の構造を理解する - 単元テスト	13	ワークシート(記述の確認) ワークシート(記述の点検) 活動の様子(行動の確認) 振り返りリポート(記述の確認)
7 ・ 8	スポーツ/歴史	14 [聞くこと] [読むこと] [話すこと(やりとり)]	Lesson 4 Older Sports and Newer Sports	- さまざまなスポーツに関する英文を聞き取る - スポーツの歴史や魅力について読み取る - 最上級、比較級、原級を用いた文の構造を理解する - パフォーマンステスト	14	ワークシート(記述の確認) ワークシート(記述の点検) 活動の様子(行動の確認) 振り返りリポート(記述の確認)
期末考査						
9	科学技術/芸術	13 [聞くこと] [読むこと] [話すこと(発表)]	Lesson 5 AI Meets the Arts	- さまざまなAI製品に関する英文を聞き取る - AI製品やAIによる芸術について読み取る - 分詞、形式主語を用いた文の構造を理解する - 単元テスト	13	ワークシート(記述の確認) ワークシート(記述の点検) 活動の様子(行動の確認) 作品内容の分析 振り返りリポート(記述の確認)

10	異文化理解/心理	14 [聞くこと] [読むこと] [話すこと (発表)]	Lesson 6 What Is Happiness?	- 幸せを感じる状況などに関する英文を聞き取る - 日本と世界の幸福度の違いについて読み取る - 過去完了、関係副詞を用いた文の構造を理解する - 単元テスト	14	ワークシート (記述の確認) ワークシート (記述の点検) 発表の様子 (行動の確認) 振り返りシート (記述の確認)
中間考査						
11	環境/経済	13 [聞くこと] [読むこと] [話すこと (やりとり)]	Lesson 7 The Maldives : A Dream Destination?	- 観光地のマリアーニに関する英文を聞き取る - 人気の観光地の抱える問題について読み取る - SVOC, SVOC + to 不定詞を用いた文の構造を理解する - 単元テスト	13	ワークシート (記述の確認) ワークシート (記述の点検) 活動の様子 (行動の確認) 振り返りシート (記述の確認)
12	人物/文化	14 [聞くこと] [読むこと] [書くこと]	Lesson 8 Kazu Hiro : In Pursuit of a Dream	- さまざまな職業に関する英文を聞き取る - Kazu Hiro が夢をかなえた方法について読み取る - 関係副詞、関係代名詞、強調構文を用いた文の構造を理解する - パフォーマンステスト	14	ワークシート (記述の確認) ワークシート (記述の点検) 活動の様子 (行動の確認) ポスター内容の分析 振り返りシート (記述の確認)
期末考査						
1	環境/生活	13 [聞くこと] [読むこと] [話すこと (やりとり)]	Lesson 9 From Recycle to Upcycle	- ゴミを再利用して作った製品に関する英文を聞き取る - 日本のゴミ事情やアップサイクルについて読み取る - つなぎ表現、分詞構文、間接疑問文、現在完了進行形を用いた文の構造を理解する - 単元テスト	13	ワークシート (記述の確認) ワークシート (記述の点検) 活動の様子 (行動の確認) 振り返りシート (記述の確認)
2・3	平等/労働	14 [聞くこと] [読むこと] [書くこと]	Lesson 10 Diversity at Japanese Companies	- 雇用の多様性を考えた企業に関する英文を聞き取る - 日本企業の取り組みについて読み取る - 仮定法過去、分詞構文、過去の would、助動詞 + be + 過去分詞を用いた文の構造を理解する - パフォーマンステスト	14	ワークシート (記述の確認) ワークシート (記述の点検) レポート内容の分析 振り返りシート (記述の確認)
学年末考査						

計 135 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

小テスト (朝学習、週末課題、単語テストを含む)、授業用ワークシート、ワークブックなど

8 担当者からの一言

学習した構文や単語を用い、英語で自分の考えを伝えたり、知っていることや調べたことを紹介、説明したりすることを目標に学習しましょう。積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢が大切です。

教科(科目)	商業（ビジネス基礎）	単位数	2単位	学年(コース)	1学年 必修
使用教科書	実教出版『ビジネス基礎』				
副教材等	実教出版『ビジネス計算模擬試験問題集2級』、実教出版『商業経済検定模擬試験問題集3級ビジネス基礎』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～上越地域唯一の商業を専門とした高等学校として、生徒の多様な進路に対応した教育活動を行います～ ①1年生では基礎学力の充実に努めるとともに、積極的に将来の自分について探求する姿勢を育成します。 ②2年生では商業科目を系統的に学習することを通して、高い専門性を追求します。 ③3年生では学校の教育活動全体を通して、実社会で必要とされるビジネスマナーの習得を目指します。 ④各学年における探究的な学習活動や体験学習、教科横断的な学習により、深い学びを実践していきます。
カリキュラム・ポリシー	～このような生徒を求めています～ ①将来は自分でお店を持つなど、起業に関心がある生徒。 ②事務や販売などの仕事につくことを目指しており、そのための知識を学びたい生徒。 ③生まれ育った地域のために自分に何が出来るか考えている生徒。 ④新しいことに挑戦してみたいという積極性があり、進路希望実現のために努力を惜しまない生徒。 ⑤健康的で規則的な生活習慣をもち、ルールやマナーを守れる生徒。

2 学習目標

商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことを通して、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な基礎的な資質・能力を育成することを目指す。

3 指導の重点

「ビジネス基礎」は商業科目の中で最も基礎となる科目である。特に本校で力を入れている各種検定試験に、入学後最初に受験するのが6月の全商ビジネス計算実務検定2級の普通計算部門である。検定試験は11月の全商ビジネス計算実務検定の2級ビジネス計算部門、2月の全商商業経済検定3級へと続く。

4 評価の観点の趣旨

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解し、ビジネスの様々な場面で役に立つ、ビジネスに関する基礎的な知識と技術を身に付けている。	ビジネスをはじめとして様々な知識、技術を活用し、ビジネスに関する課題を発見するとともに、企業活動が社会に及ぼす影響を踏まえ、市場の動向、ビジネスに関する理論、データ、成功事例や改善に要する根拠に基づいて工夫してよりよく解決することについて考えている。	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自らビジネスについて学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して、当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、ビジネスの創造と発展に責任をもって取り組もうとしている。

5 評価方法

評価方法	評価は次の観点から行います。		
	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 ①定期考査 ②検定の結果 ③レポートや提出物 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ①定期考査 ②検定の結果 ③レポートや提出物 ④授業中の発言、取り組みへの観察 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ①レポートや提出物 ②授業中の発言、取り組みへの観察 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」 で評価します。 内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	第1章 商業の学習と ビジネス	全商ビ ジネス 計算検 定模擬 問題集	商業を学ぶ目的やビジネスで必要な心構え、商業の学習の進め方、私たちの生活とビジネスの結びつきや、ビジネスを取り巻く社会の動きや課題について学ぶ。	8	授業への取り組み レポート 提出物 定期考査 検定の結果
5	第7章		電卓の操作をはじめ、仕入原価や利息の計算などビジネス計算に関する知識や技術を学ぶ。	10	
6	ビジネス計算		ビジネスを円滑に行うために必要なコミュニケーションについて学び、身だしなみや挨拶、来客対応などのビジネスマナーを身につける。	8	
7	第2章 ビジネスと コミュニケーション		経済の基本概念や経済活動を行う主体(家計、企業、政府)の役割、商業が担う流通の役割やそれを支える活動について学ぶ。	8	
8	第3章 経済と流通の基礎		製造業、サービス業、小売業、卸売業、物流業、金融業、情報通信業のビジネスについて学ぶ。	10	
9	第4章 さまざまなビジネス		企業の役割や組織、社会的責任について学ぶ。マーケティングの重要性や資金調達の方法、財務諸表の役割、税、雇用など、企業の一員として知っておくべき知識を身につける。	10	
10	第5章 企業活動の基礎		売買取引の手順や代金決済の方法について学ぶ。	10	
11	第6章 ビジネスと売買取引		さまざまな地域の魅力と課題、地域ビジネスの動向について学ぶ。	6	
12	第8章 身近な地域の ビジネス	全商商 業経済 検定模 擬問題 集			

計 70 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

定期考査は毎回実施します。

ノート・ファイル提出をしっかりと行い、課題等にとしっかりと取り組むことが必要です。

長期休業中や検定試験前の課題は別途指示します。

8 担当者からの一言

「ビジネス基礎」は商業高校に入学して最初に学ぶ専門科目のひとつですが、専門科目の基本知識または必要性を理解するための大切な科目となります。頑張りましょう。

教科（科目）	商業（簿記）	単位数	5単位	学年（コース）	1学年 必修
使用教科書	実教出版『高校簿記』				
副教材等	実教出版『簿記検定問題集全商2級・3級』他				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～上越地域唯一の商業を専門とした高等学校として、生徒の多様な進路に対応した教育活動を行います～ ①1年生では基礎学力の充実に努めるとともに、積極的に将来の自分について探求する姿勢を育成します。 ②2年生では商業科目を系統的に学習することを通して、高い専門性を追求します。 ③3年生では学校の教育活動全体を通して、実社会で必要とされるビジネスマナーの習得を目指します。 ④各学年における探究的な学習活動や体験学習、教科横断的な学習により、深い学びを実践していきます。
カリキュラム・ポリシー	～このような生徒を求めています～ ①将来は自分でお店を持つなど、起業に関心がある生徒。 ②事務や販売などの仕事につくことを目指しており、そのための知識を学びたい生徒。 ③生まれ育った地域のために自分に何か出来るか考えている生徒。 ④新しいことに挑戦してみたいという積極性があり、進路希望実現のために努力を惜しまない生徒。 ⑤健康的で規則的な生活習慣をもち、ルールやマナーを守る生徒。

2 学習目標

商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、取引の記録と財務諸表の作成に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 簿記について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2) 取引の記録と財務諸表の作成の方法の妥当性と課題を見いだし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応する力を養う。
- (3) 企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力の向上を目指して自ら学び、適正な取引の記録と財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

3 指導の重点

企業において日常発生する取引を合理的、能率的に記帳する知識と技術を習得させる。

取引の仕訳から勘定の記入を経て決算に至るまでの簿記の基本的な仕組みについて、記帳練習を通して理解を深める。作成した帳簿、伝票や貸借対照表、損益計算書を通して、ビジネスの諸活動を理解する能力を育てる。

4 評価の観点の趣旨

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
商業簿記に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。	各種補助簿等の記帳法等についての能力を身に付けている。	取引の記帳と決算を繰り返し学ぶことにより、簿記一巡の流れが理解できている。例題や章末にある練習問題に取り組むことにより技能の身に付けている。

5 評価方法

評価方法	評価は次の観点から行います。		
	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、定期考査の結果、単元ごとの確認テスト、提出物とその内容などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、授業での理解や発表、レポートや取り組みの分析などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、授業に対する取り組みの態度、自宅での答案練習の取り組みが主体的に取り組んでいるかなどから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。 内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
<u>4</u>	簿記の基礎	5	教科書 問題集 単元別練習 問題等	・簿記の意味、簿記の目的、簿記の種類、 簿記の歴史、簿記の前提条件について、そ の知識・技術を身につける。	5	授業の取り組み
<u>5</u>	取引の記帳と決算Ⅰ	1 5		・簿記上の取引概念、勘定や勘定口座、勘 定科目の意味、取引の分解および勘定記入 のルールについて、その知識・技術を身に つける。	1 5	中間考査
<u>6</u>	取引の記帳と決算Ⅱ	2 5			2 5	課題の提出
<u>7</u> <u>8</u>						期末考査
<u>9</u>	帳簿・伝票と記帳の 効率化	3 0		・主要簿の概念を理解し、仕訳帳および総 勘定元帳の基本的な記帳方法について、そ の知識・技術を身につける。 ・試算表の意味および主たる目的を理解 し、三種類の試算表を実際に作成する知 識・技術を身に付ける。	3 0	授業の取り組み 中間考査 課題の提出
<u>10</u>	取引の記帳と決算Ⅲ	3 0	・決算の意味、総勘定元帳の締め切りに重 点を置いた決算の手続、決算の報告につい て、その知識・技術を身につけている。 精算表の意味および仕組みを理解し、精算 表を実際に作成する知識・技術を身につけ る。	3 0	期末考査	
<u>11</u>	本支店の会計	2 0	・本支店間の取引に関する基本的な内容 とその記帳法を理解して、基礎的な技術を 身につける。	2 0		
<u>12</u>	株式会社の記帳	2 0	・株式会社の取引に関する基本的な内容 を理解し、基礎的な技術を身につける。	2 0	授業の取り組み	
<u>1</u> <u>2</u> <u>3</u>	答案練習	3 0	・練習問題に継続して取り組み総合的な 理解を深める。	3 0	検定の取り組み 課題の提出 期末考査	

計 175 時間 (50分授業)

7 課題・提出物等

- | | |
|--------------|----------|
| ・単元別練習課題 | ・検定模擬問題 |
| ・夏季休業、冬季休業課題 | ・授業準備問題集 |

8 担当者からの一言

初めて学習する科目なので、毎日学習する習慣をつけ、日々理解できるよう努力しましょう。

教科(科目)	商業（情報処理）	単位数	3単位	学年(コース)	1学年 必修
使用教科書	実教出版『最新情報処理 Advanced Computing』				
副教材等	東京法令出版『全商情報処理検定模擬試験問題集3級』『全商情報処理検定模擬試験問題集2級』 実教出版『全商ビジネス文書実務検定模擬試験問題集2級』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～上越地域唯一の商業を専門とした高等学校として、生徒の多様な進路に対応した教育活動を行います～ ①1年生では基礎学力の充実に努めるとともに、積極的に将来の自分について探求する姿勢を育成します。 ②2年生では商業科目を系統的に学習することを通して、高い専門性を追求します。 ③3年生では学校の教育活動全体を通して、実社会で必要とされるビジネスマナーの習得を目指します。 ④各学年における探究的な学習活動や体験学習、教科横断的な学習により、深い学びを実践していきます。
カリキュラム・ポリシー	～このような生徒を求めています～ ①将来は自分でお店を持つなど、起業に関心がある生徒。 ②事務や販売などの仕事につくことを目指しており、そのための知識を学びたい生徒。 ③生まれ育った地域のために自分に何が出来ると考えている生徒。 ④新しいことに挑戦してみたいという積極性があり、進路希望実現のために努力を惜しまない生徒。 ⑤健康的で規則的な生活習慣をもち、ルールやマナーを守れる生徒。

2 学習目標

商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業において情報を適切に扱うために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)企業において情報を扱うことについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2)企業において情報を扱うことに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 (3)企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業において情報を適切に扱うことに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

3 指導の重点

・コンピュータの基礎知識や文書処理ソフトウェアや表計算ソフトウェアなど各種ソフトウェアの操作技術の習得を目指します。 ・習得した技術を用いてビジネスに関する情報を収集・処理・分析し、表現する知識と技術の習得を目指します。 ・情報セキュリティの確保、知的財産の保護などに留意して、情報を適切に扱うために必要な資質・能力と育てます。
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
企業において情報を扱うことについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにしている。	企業において情報を扱うことに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業において情報を適切に扱うことに主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

5 評価方法

評価方法	評価は次の観点から行います。		
	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・提出物の内容 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・授業中の取り組み（発言、発表）の観察 ・提出物の内容 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の取り組み（発言、発表）の観察 ・提出物の内容 ・振り返りシート（検定の取り組み）の記述の分析 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。 内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	1章 企業活動と情報処理 1節 情報処理の重要性 2節 情報モラルと法規 3節 コミュニケーションと 情報デザイン	7	※タッチメソッド (MIKA タイプ) ビジネスにおける情報活用の実際 を学ぶことにより、コンピュータを利用 した情報の処理や活用の重要性を 理解する。 情報を取り扱う上で守るべき法規 の必要性と、その概要を理解する。	7	授業の取組
5	4章 ビジネス文書の作成 1節 ビジネス文書と表現 2節 基本文書の作成 3節 応用文書の作成	28	※ビジネス文書 (Microsoft Word) ビジネス文書の利用に関する知識 と技術を習得させ、文書の構成、構成 要素の配置、文書作成の要領について 理解する。 基本的な文書作成から表やグラフ などを含む応用的な文書の作成に関 する知識と技術について理解する。	28	中間考査 課題の提出 期末考査
7	3章 情報の集計と分析 1節 ビジネスと統計	47	※表計算ソフト (Microsoft Excel) 基本的な操作や計算式及び関数に ついて理解とグラフの種類や構成要 素、特色を理解して目的に応じて適切 な表やグラフの作成をする技術を身 に付ける。 データベース機能の整列や検索、抽 出の技法について理解する。 事象をモデル化し、シミュレーショ ンを行う基礎的な技法を用いた問題 の発見と解決について考察する。	47	授業の取組 振り返りシート 夏季休業課題 課題考査 中間考査 課題の提出 期末考査
8	2節 関数を利用した表の作成				
9	3節 グラフの作成				
10	4節 情報の整列・検索・抽出				
11	5節 問題の発見と解決の方法				
12	2章 コンピュータシステムと 情報通信ネットワーク 1節 コンピュータシステム の概要 2節 情報通信ネットワー クのしくみと構成 3節 インターネットの活用 4節 情報セキュリティの確保	11	コンピュータの基本的な機能と構 成を理解し、ハードウェアとソフトウ ェアの種類と機能やそれを活用する 基本的な技術を身に付ける。 情報通信ネットワークを利用した ビジネス情報の検索と活用方法につ いて理解する。情報化社会に参画する ために個人が身につけるセキュリテ ィ管理の方法について理解する。	11	授業の取組 課題の提出 冬期休業課題 課題考査 振り返りシート
1					
2	5章 プレゼンテーション 1節 プレゼンテーションの技法	12	※プレゼンテーションソフト (Microsoft Power Point) ビジネス活動におけるプレゼンテ ーションの意義を理解するとともに、 基礎的な技法を身に付ける。 プレゼンテーションソフトウェア を活用した実習を通して、資料の作成 などの発表準備から発表までの一連 の活動について理解を深める。	12	学年末考査
3	2節 ビジネスにおけるプレ ゼンテーション				授業の取組

計 105 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

- ・課題ビジネス文書の提出 (Microsoft Word)
- ・課題演習問題の提出 (Microsoft Excel)
- ・夏季休業、冬季休業課題
- ・プレゼンテーション作品の提出 (Microsoft Power Point)

8 担当者からの一言

パソコンの有効的な活用を学ぶ授業です。タッチメソッド、文書作成ソフト、表計算ソフトによるレポート作り、インターネット活用などを基礎から学び、ビジネスにおける情報活用能力を身に付けます。